

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム
本当はみんなつながりたい
～コロナ禍で、私たちにできることって何だろう？～
令和3年7月3日（土）

本当はみんな つながりたい

コロナ禍で、私たちに
できることって何だろう？



SUMIDA

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

令和3年7月3日（土）13:00～16:00 開場12:00

■講演 頼みの綱は、地域の力
講師 小柴 徳明 氏(富山県黒部市社会福祉協議会)
「コロナ禍での地域活動とこれからは？」

■グループディスカッション
「つながり方・情報の伝え方とは何か？」
コロナ禍で活動が難しくなっている今、みなさんで
これからの活動のヒントを探りましょう！

会場・定員 ※お車での来場は、お控え下さいますようお願い申し上げます。

○すみだリバーサイドホール（定員50名）
墨田区吾妻橋1-23-20
○情報経営イノベーション専門職大学（定員25名）
墨田区文花1-18-13

申込方法

○申込期限：令和3年6月28日（月）
○申込方法：必要事項を記入の上メール、FAX又は電話
でお申し込みください。

申込み先

○墨田区福祉保健部厚生課
メール：KOUSEI@city.sumida.lg.jp
TEL：03-5608-6150
FAX：03-5608-6403

要 予 約
入 場 無 料

詳しくは裏面をご確認ください。



つながる
墨田区



■主催■ すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会 墨田区 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

参加申込書 ●以下の必要事項を記入の上、メール、FAX又は電話でお申し込みください。
※は記入必須

※名前	所属団体（個人の方は、記入不要です。）
※メールアドレス @	※電話番号

※事前予約制のため希望の会場の数字に○をつけてください。緊急事態宣言の状況により、情報経営イノベーション専門職大学を選択した場合、会場がすみだリバーサイドホールへ変更となる場合がございます。定員が埋まり次第申込みを締め切らせていただきますので予めご了承ください。

1 すみだリバーサイドホール（定員50名） 2 情報経営イノベーション専門職大学（定員25名）

手話通訳希望の場合は□に✓マークをご記入ください。□

●手話通訳者希望の場合は、会場がすみだリバーサイドホールになる旨をご了承ください。

当日会場へ参加希望の方は、メール、FAX又は電話

ご自宅等で講演のみLive視聴希望（Zoom必要）の場合は、こちらのQRコードより申込みください。



●申込み先

墨田区福祉保健部厚生課

メール：KOUSEI@city.sumida.lg.jp

FAX：03-5608-6403 TEL：03-5608-6150

プログラム

13:00 オープニング

13:10 講演 ----->

「頼みの綱は、地域の力」

コロナ禍での地域活動とこれからは？一人一人が地域の主役です。困難な時代だからこそみなさんの力が必要です！

講師

■小柴 徳明（こしば のりあき）氏
社会福祉法人 富山県黒部市社会福祉協議会

【講師プロフィール】

黒部市社会福祉協議会 総務課長補佐／経営戦略係長。
地域のくらしや福祉活動におけるICT（情報通信技術）
利活用事業等に携わっている。また、ICT国立研究開発法人
情報通信研究機構でソーシャルICTシステム研究室協力研究
員も務めている。

14:00 グループディスカッション

「新型コロナウイルスの影響を踏まえたつながり方、情報の伝え方とは何か？」

新型コロナウイルスの影響でつながることが難しくなっている今、あなたの少しの助けを必要としている方がいます。支え合いの形が変わり新たな日常が始まっている今、あなたが考えるつながり方とは？

15:00 まとめ・講評

各グループの意見を共有しましょう。

活動へのきっかけ・活動のありかたへのヒントが見つかるかも？

-----> 15:30 エンディング

注意：新型コロナウイルスの影響により、内容が変更・中止になる可能性があります。最新情報は、問合せ先へご確認ください。

■ 概要

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティア活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかける。

「本当はみんなつながりたい ～コロナ禍で、私たちにできることってなんだろう？～」をテーマとした。

2 日時

令和3年7月3日（土）13時から16時まで

3 場所

すみだリバーサイドホール・情報経営イノベーション専門職大学
（以下「IU」とします。）

4 内容

（1）講演会

「頼みの綱は、地域の力」

講師 小柴 徳明 氏（富山県黒部市社会福祉協議会）

※富山県黒部市より Zoom による参加

（2）グループディスカッション

新型コロナの状況を踏まえたつながり方、情報の伝え方とは何か？

「新型コロナの影響でつながることが難しくなっている今、あなたの少しの助けを必要としている方がいます。支え合いのカタチが変わり新しい日常が始まっている今、あなたが考えるつながり方とは？」

（3）まとめ・講評

5 主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会
墨田区 墨田区社会福祉協議会

6 来場者数

約100名（関係者含む）

講演会配信視聴者12名

■ 司会者紹介

今年度は実行委員の五十嵐委員、林委員が司会者でした。

■ 開会挨拶

開催にあたり、鎌形実行委員長、山本墨田区長、西原墨田区社会福祉協議会会長から主催者の挨拶がありました。



鎌形委員長



山本区長



西原会長

■ 講演 「頼みの綱は、地域の力」

講師 小柴 徳明 氏（富山県黒部市社会福祉協議会）

墨田区公式 YouTube チャンネルで講演の様子をご覧ください。→



黒部の福祉を良くする活動計画で定められた「5 GOALS for 黒部」を例に、地域の支え合いやまちづくりにおいて大切なことを「住民主体」という視点からお話いただきました。



リバーサイドホールでの様子



IU ホールでの様子

【概要】

1 黒部市・黒部市社会福祉協議会（以下「社協」とする。）の紹介

黒部市は、黒部川の扇状地に約4万人の市民が住んでいます。黒部といわれると黒部ダム
のイメージが強いですが、漁業も盛んで海の幸がおいしい海のまちです。厄年の火渡り
「生地たいまつ祭り」という伝統行事もあります。

社協では、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進を経営理念
に、所属する経営戦略係では10歩先を見て考えるという視点で仕事としています。現在の
重点テーマは、「支援者が支援しやすい環境づくり」ということで様々な事業を展開し
ています。支援者の方がどのようにしたら支援をしやすくなるのか、地域のみなさん、社
協、行政みんなで考えてきました。



2 福祉・支え合いとは？

新人職員の研修で福祉とは「幸せ」であり、「私たちの仕事は、幸せを支える仕事をし
ていく。」と教えられました。今もどのように地域の幸せを作っていくのか、常に考えて
仕事をしています。また、今年の1月富山県は驚くほどの大雪に見舞われました。まちの
至るところで車が立往生したり、雪に埋もれてしまったりして、帰宅困難になった方も多
数おり大変な混乱となりました。こうした状況の中で、市民の方が自然発生的に自ら率先
して、立往生した車を助けたり、手旗信号で車の往来をサポートしていたりしました。こ
のように困っていた時には、互いに助け合い大雪を通じて地域の力を再確認できました。
行政の支援やインフラの整備が間に合わない時には、やはり近くにいる地域住民の力が本
当に大切だということを実感しました。



3 コロナ禍における地域福祉活動とは？

現在コロナ禍における地域福祉は、「触れるな、集うな、距離をとれ」という理想の地域活動とは180度違う状況となっています。感染対策のみを考えるのであれば、もちろん一番簡単なのは中止にしてしまうことで、今までの活動を全否定されているようなことが求められています。しかし、このような時だからこそ、これからは地域の力を活かしながら行政・社協と協力して、みなさんで地域の支え合いをどう作っていくか考えていくことが大きなテーマだと思っています。

コロナ終息後地域福祉は、「元に戻る、活動が盛んになる、活動が縮小する」という選択肢があります。今後どうなるのか、福祉をより良く（welfare）するにはどうしていくか考えていくことが大切です。

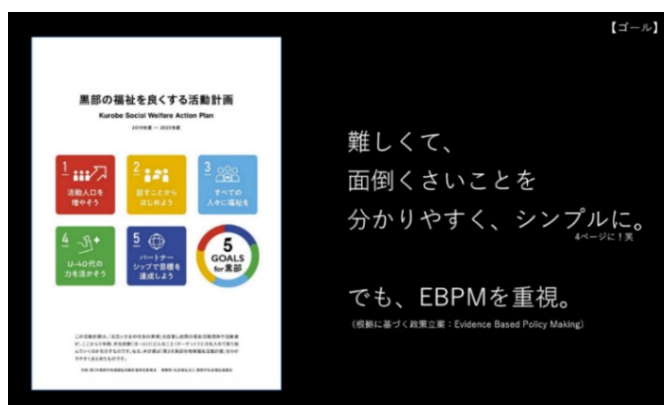
4 地域を考えていく上で大事なことは？

各地域での差はあるが、全体として少子化、高齢化、人口減社会です。社協は、担い手も育て、自分自身も個人として活動していかないと人手が足りないという状況となっています。また、ボランティア活動者やNPOと一緒に地域福祉を支えていく必要があります。仕事として福祉活動を行っているプロフェッショナルがたくさんいたとしても、地域の力となる志しベースで活動しているボランティアやNPOの方が一緒に活動していくことが重要です。もう1つは、できるものは自分で行い、無いものは自分たちで作り出すということも大事です。「みんなで協働してやりましょう」という綺麗なことを昔から言ってきましたが、今は、本当にみんなでやるしかないという社会です。このような時だからこそ、地域の力・社会関係資本（地域にある資源）をフル活用していかなくてはならない時代に突入しています。住民主体のまちづくりは住民の方からすると、「丸投げ」と感じられるか「住民が主役」と受け止められるかは紙一重です。また、見守り活動も「監視」か「見守り」なのかは紙一重です。地域福祉活動が義務となってしまうと今後ボランティア活動をする方がいなくなってしまうのではないかと考えられます。

地域福祉を考える上で地域の”定義“を整理する必要があります。黒部市を例とすると、市の単位は、黒部市全体を地域といい、小学校区を小地域としています。しかし、立場の違いによっては、育児地区を地域とし、班や世帯・個人を単位する場合もあります。このようにそれぞれの立場によって地域の単位が違うため、みなさんで地域について話し合う時には、地域について整理する必要があります。また、地域の課題も整理する必要があります。個人、世帯、市内、地区、黒部市ごとの課題を整理することで、今後の地域課題を考え、そのためには何が必要か考えることが大切です。

5 地域の力を最大限にするには？

黒部市では①ゴール②根拠③ものさしの3つを大事に地域福祉の推進を考えています。その例として地域福祉活動計画などはゴールです。しかし、多くの市民の方にはほとんど見られていないのが課題でありました。福祉をよくする計画を市民の方に見てもらうにはどうしたらいいか考えた時に、難しくて、面倒くさい



ことを、わかりやすく、シンプルに、5つのゴール（5GOALS for 黒部）を設定しました。これは、SDGsを意識して市民のみなさんに身近に感じてもらえるようなゴール設定をして計画を作りました。また、根拠に基づく政策立案（EBPM）により、根拠を示していくことはとても大事となります。福祉においては、データやエビデンス（根拠）

よりも勘や経験が重要視されていることも多いですが、根拠と経験の両方持ち備えたら、その福祉は最強となるのではという思いから、データやエビデンス（根拠）を集めることに黒部市では力をいれています。

次に、5つのゴールをどのように達成したかを測るための指標＝ものさし（評価）を市民のみなさんと一緒に探しました。このような場面では、市民のみなさんの参加が大前提で、この参加が住民の主体にもつながっていきます。コロナ禍で地域の集まりが減ってしまっているとは思いますが、皆さんが新たに集まり始めた時にぜひ住民の参加とは何か考えていただきたいです。みなさんで集まって地域の課題について考える際は、どのような答えが出ようともみんなで話し合い考えていくことがとても大事です。例えば、計画を作るときのワークショップを行った時、老人クラブの会長の課題、子育て中のお母さんの課題、その人の立場の色々な課題があって初めは話し合いが全然かみ合わないような状態でした。しかしお互いを理解しようとしたり、受け入れたりすることで、少しずつ話し合いが進んでいきました。このような一般的にはやりづらいと言われるような会議が、本当は地域に必要なんだということを実感しました。地域には、0歳児から高齢者、いろいろな背景の方が住んでいてみなさんの幸せを常に考えながらベスト又はベターな取組みを活動していかななくてははいけません。

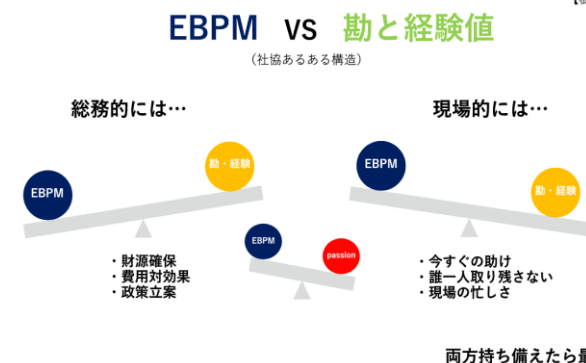
以上のように計画を市民のみなさんと作り上げてきましたが、今私たちは、地域の状況を「見える化」していくことに力をいれています。「住民主体のまちづくり」が地域への丸投げと言われないために、自分たちのまちは、自分たちでより良くしていくことが楽しいと、市民の方に思ってもらえるようなまちづくりに黒部市では力を入れています。

目指すGOAL

「市民主体のまちづくり」 = 市民社会の創造
自分たちのまちは、自分たちで良くしていく

仮説
(結論)

社会をもっと「見える化」
できれば、市民が社会に参加する。



■ グループディスカッション

「新型コロナの状況を踏まえたつながり方、情報の伝え方とは何か？」

【概要】

1 コロナ禍での福祉の課題・問題の共有

- ・社会的孤立の深まり、閉じこもりがち。
- ・地域での活動が制限されているため、見守りができなくなっている。
- ・サロン活動が制限され新たな課題の発掘や見守りの必要な方の発見が難しい。
- ・フレイル予防ができない。
- ・花火や祭りイベントでのつながりがなくなってしまった。
- ・町会・自治会で集まることが難しい。
- ・マスクで表情が読みづらい。（特に聴覚障害の人は特に苦労している様子）
- ・老人会の活動も制限されており、若い人と高齢者の接点が少なくなっているし、自発的に声をかけるのが難しくなっている。
- ・1人暮らしの高齢者や障害者の方を心配して、皆さんとお話したいと思っても会える場所（レストラン等）が制限されている。

2 つながり方・情報の伝え方

- ・ICT 技術、インターネット、ラインやメールなどのツールを利用する。
- ・昔のような形に戻そうという考え方ではなく、現在のかたちでできることを考えていくべき。
- ・できるだけ人が動いていない時間に、人が集まらない場所に出かけるようにはしている。
- ・防災無線を利用する。
- ・集まっての行事ができないため、ポスティングやインターホン越しでの会話やメッセージカードの送付などでゆるやかなつながりを絶えないようにしている。
- ・挨拶は必ずして、小さいコミュニティから大きいコミュニティにつなげる。（日頃のつながりが災害時や緊急時に役立つ）
- ・地域交流、コミュニケーションの場を行政が積極的に設けるべきではないか。イベント等の実施の可否を定めた基準を設け、それに沿って交流促進を図るべき。
- ・町会の会報で、「〇〇には本町会の人たちも参加しています。」という記事を書けると、参加する人が増える。知っている人が行っているのなら行こうかなということになるようだ。

3 課題

- ・助けて欲しいと思っても、遠慮する人がいるため困っている人を見つけたるのが難しい。
- ・ひきこもりなどアプローチの仕方自体がわからない。
- ・支援が煩わしいと思う方がいる、その方のニーズがわからないので距離感が難しい。
- ・高齢者や障害者でも平等に情報を得られるようにしなければならない。
- ・スマートフォンやパソコンの利用が出来ない方、情報を自分から取りに行く方と、情報をもらうだけの方に分かれてしまっていて情報格差が生じてしまっている。
- ・電子機器に頼りすぎて、今あるつながりが希薄化するのではないかと不安。
- ・少人数での集まりであっても、雑談ができないので密なコミュニケーションがとれない。

■ まとめ

各グループ話しあったことをリバーサイドホール、IU ホールの各1グループの代表者に発表をしていただきました。



リバーサイドホールでの発表の様子

発表者：広報広聴担当 上紙 氏

●民生委員、朗読ボランティア、外国の方への日本語ボランティアの方など多分野の活動をしている方でグループディスカッションを行った。コロナ禍でなくても、見守りが難しい方については、状況は悪化している。またサロン活動などができなくなっていることで、新たに課題を抱えている方、見守りが必要な方と出会える機会がなくなっている。活動場所を使って支援をしている方については、活動場所が制限されてしまったことで、活動が縮小せざるを得なくなっていたり、会自体が休会になってしまったりするため活動者が減ってしまっている実感がある。個々のつながりをつくるため、連絡先を伝えるなどはしているが、プライバシーの壁があることが課題だということを伺えた。

その中でどのようにつながったり情報を伝えたりできるかは、例えば防災無線などを利用したものが挙げられた。会えないならメールやラインを利用して動画などを送り合ったり、今まで使っていなかったツールを利用して情報を伝えあったりすることも考えられる。

コロナ禍でできないことが増え、活動や会える機会が縮小されてしまっているが、その中でも工夫をして今できることを行っている。制限を受けながらも、一緒にボランティア活動をする仲間がいてコロナの中で自分自身や家族が感染しないように気を付けながら、気持ちまでコロナにやられないように前向きに、活動を続けていこうというご意見もあった。

発表者：墨田区社会福祉協議会 唐澤 氏

●施設職員、民生委員、介護ヘルパー、町会・自治会、IT 企業の方などが参加。コロナ禍の地域の状況としては、子どもから大人まですべての世代で会える機会が減っている。外出する機会や情報を得る機会が減って、行事についても軒並み中止となってしまう。

そのため、毎年行っていた芋煮会を集まっていたのではなく、配布する形式に代えてこれまでのつながりを維持しようと試みている。老人会で人自体は集まれなかったが、お祝いやメッセージカードなどを渡しに訪問する方法をとった。また屋外活動、例えば公園の清掃を続けることでその際に、情報交換することで近所の方を気に掛ける機会を増やすなども行っているという話があった。コロナ後に向けて、完全に今までの活動がもとに戻ると考えるよりかは、新しいかたちで行っていくこと、若い力や知識、老若男女問わずみなさんの声を活用していくという意見があった。これからの課題は、家にこもりがちになっている方へのアプローチの方法や ICT という技術があってもそれを利用できない方の情報格差などの課題が挙げられた。

■ 講評

小柴氏には、各会場のそれぞれ1グループのグループディスカッションの様子を Zoom でお聴きいただき代表者による発表に続き、講評をしていただきました。

【概要】

黒部市社協では、ICT の利活用に取り組んでいます。ただし、ICT も単なるツールのひとつです。すべてのことが ICT で解決でき、完全に見守りができるとか、今の形式すべてが ICT に置き換わる話ではなく、ふれあいができなくなっているところや直接行けない部分を ICT で一部活用できないかということを考えています。そのため、国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャル ICT システム研究室ではソーシャル ICT といわれる、地域のつながり、関係性にどう ICT を利活用できるかという研究をしています。例えば回覧板は地域の情報伝達では、正確に早くというよりは、ゆっくりと回覧するというのが特徴です。そのようなゆるやかなつながりや見守りが ICT でもできないかということも研究しています。そうした中で、ICT の知識や経験が少ない方の情報格差が、生活格差につながるという状況が出てきているのも現状です。ディスカッションの中では、その部分にどう対応したらいいかという話がでているのを伺いましたが、やはり人がその方にわかりやすく翻訳して伝えることがとても大事だと思います。

ディスカッションを聴いていて、SOS を発信する、助けてと言いたい社会にしたいという意見がありました。私たちにおいてももっと助けてと言いたい社会ということを目指して掲げていました。しかし、地域福祉の調査をしていく中で、本来は違うのではと感じています。今までの経験や話から、いくら助けてと言いたい環境を作ったとしても、人は簡単には助けてと言えないのではということに気づきました。そのことから、「助けに気づいてあげる社会」をつくるというのが今掲げている目標です。災害時の助け合いにも似ている状況があります。水害で泥だらけになった家に訪問して「困っていることありますか？」と聞いたとしても大体が「大丈夫です。」と返答があることが多いです。このままでは、ニーズがわからないため助けることができません。このような時どうするかというと隣の家に聞いてみると、本当はとても困っている状況があると教えてくれることが多いです。人から聞くとか伝えてもらうということをしなが、ニーズを探っていくことがとても重要です。

情報発信ということはとても大切です。市民の方が社会の問題に関心を持たないとか、興味がないから、意識が低いから福祉に関わらないのではなくて、“知らない”からだと思っています。そういう意味ではちゃんと情報を伝えるということを行えば、さらに協力してくれる方、関わってくれる方は増えていくと思います。仲間を見つけるためには何をしなくてはならないか。確かにやっていれば誰かが目を向けてくれるということもあるかもしれないが、情報をしっかり発信していく、動きを見える化していくことが、活動を広げていくにはすごく大事なことはないかと思いました。

みなさんのご意見やディスカッション内容は、私自身も勉強になったり共感したりする部分がとても多かったです。墨田区も黒部市もコロナ禍において、地域福祉が若干停滞してしまった部分があるかもしれません。コロナ禍にあっても、この先を考えて動いていかなければならない段階になっています。墨田区も黒部市も地域福祉活動は同じ単位で動いています。お互いに地域福祉活動がコロナ後にも動き出せるように墨田区においても頑張っていたいただければと思います。

■ エンディング

墨田区社会福祉協議会栗田事務局長から、挨拶があり閉会となりました。

■ その他

1 準備会の開催

「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会」の設置前に、準備会を行いました。

(1) 令和3年3月16日(火) 10時から

会場：墨田区役所 121会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムスケジュール・内容の検討等

2 実行委員会の開催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの企画・運営のために、「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会」を設置しました。

(1) 第1回

日時：令和3年4月7日(水) 午前10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム内容の検討

(2) 第2回

日時：令和3年4月21日(水) 午前10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム内容の検討、チラシについて

(3) 第3回

日時：令和3年6月11日(火) 午前10時から

会場：墨田区役所 81会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム内容の検討、チラシについて

(4) 第4回

日時：令和3年6月30日(水) 午前10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム最終確認

3 実行委員

青木 裕之、五十嵐 美奈(副委員長)、内田 正代、内山 幸生、鎌形 由美子(委員長)、栗田 陽、佐藤 幾洋子、鈴木 一郎、須藤 浩司、須藤 正、谷 由美子、野中 真理子、林 佳慧(敬称略、五十音順)

4 広報

区民に広く参加を呼びかけるため、次の事業PRを行いました。

墨田区のお知らせ(6月21日号)、すみだ社協だより(6月号)、区HP、墨田区社会福祉協議会HP、チラシ・ポスター配布(区施設、町会、図書館等)、SNS等

5 アンケートの実施

当日の参加者にアンケートを実施しました。

アンケートの集計結果は、別紙「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムアンケート結果」のとおり